

# 放送人 51 人の証言集が本になりました

(2015 年 10 月出版)

高橋信三記念文化振興基金、NHK 放送文化基金 助成事業

## 『民間放送のかがやいていたころ ゼロからの歴史 51 人の証言』

関西民放クラブ「メディアウ・オッチング」編

関西民放クラブに所属する「放送を考える会～メディア・ウオッチング～」は、テレビ誕生 60 年の機会に、放送人への聞き取りによって、民間放送の歴史を掘り起こそうという活動を続けてきました。

聞き取り対象者の人選に際しては、当該クラブ所属のラジオ・テレビ兼営局、テレビ単営局、ラジオ単営局 11 局に協力を求め、準備会を 2 回開催（2013 年 10 月 15 日、11 月 19 日）し候補者をリストアップしたうえで、交渉に入りました。

その中には民放草創期、放送現場に携わっていた制作者で 80 歳を超える高齢者もおり、当事者でなければ語れない手作りの時代の証言を「記録」に残す貴重なチャンスとなりました。

そして下記のような基準で 51 人の放送人を選び、名番組の誕生秘話など一人 2 時間をめどにインタビューしたものをレコーダーに記録しました。

録音した証言は約 100 時間、400 字詰め原稿用紙に書き起こすと、3000 枚を超える分量になります。この膨大な記録を基に編集されたのが、今回 10 月出版の運びとなった

『民間放送のかがやいていたころ～ゼロからの歴史 51 人の証言』（680 ページ）です。

初めて公開される情報も散見され、放送史としてはユニークな切り口が特徴とあってよい内容になっています。

聞き取りの対象者

- ① 新機軸を打ち出し、放送史に残る番組および人気番組を制作した放送人
- ② 放送史に残る歴史的な出来事に立ち会った、あるいは何らかの形で関わった放送人  
(例えば、日本万国博、阪神淡路大震災、民間放送ラジオ、テレビ開局など)
- ③ 放送のジャンルから消えてしまった番組を制作した人（落語など）

## 『民間放送のかがやいていたころ ゼロからの歴史』の証言者 51 人

### 【第 1 章】

- 庄野 至 (毎日放送 元制作局長)  
日本初の民間放送「新日本放送」時代 (1951 年開局)。
- 山内久司 (朝日放送 元専務取締役)  
「必殺仕掛け人」シリーズ プロデューサーが  
「テレビ 昔と今」を語る。
- 荻野慶人 (演出家 読売テレビ 元取締役制作局長)  
宝塚映画から読売テレビへ。最初の頃はお笑い番組にも関わる。  
テレビドラマ「道頓堀」(1968 年) など演出。
- 西村嘉郎 (朝日放送 元代表取締役社長)  
“お笑いの ABC” の元祖を探る。  
「蝶々・雄二の夫婦善哉」(ラジオ 1955 年、テレビ 1963 年)  
「ただいま恋愛中」(テレビ 1970 年)  
「新婚さんいらっしゃい」(テレビ 1971 年) ほか。
- 橘 功 (読売テレビ 元「11PM」プロデューサー)  
テレビ「11PM」誕生のあれこれ (1965 年)
- 山本雅弘 (毎日放送 元代表取締役社長・会長)  
「これからの放送」～テレビ・ラジオ番組の軌跡～  
「仮面ライダー」「まんが日本昔ばなし」「われら世界に生きる」
- 加藤信夫 (関西テレビ 元報道局プロデューサー)  
芸術祭ドキュメンタリー部門優秀賞「一年一組」(1979 年)  
神戸市にある小学校の一年一組を追跡。  
ごく普通の教室で起きる出来事を凝視。
- 上沼真平 (関西テレビ 元制作局長、常務取締役)  
テレビ 情報バラエティー番組「エンドレスナイト」(1984 年)  
若者から熱狂的な支持 終了時間が未定のユニークな番組。

- 栗花落 光 (FM802 代表取締役社長)  
ファンキーな音楽 FM 局  
「ファンキー・ミュージック・ステーション」が目指すもの
- 恩田雅和 (和歌山放送 元プロデューサー 現・繁昌亭支配人)  
卒業論文のテーマは「落語における文学性」  
関西地区の民放で唯一の本格的落語番組「紀の国寄席」を企画。  
桂 春雨、桂 福車が司会、毎月 1 回落語家を招き寄席を開催 (1991  
年から 2005 年まで 14 年間放送)  
ラジオ寄席「紀の国寄席」は 30 分の収録番組として放送。
- 里見 繁 (毎日放送 元報道局プロデューサー、現関西大学教授)  
テレビ ドキュメンタリー制作 100 本を超える。  
番組作りの原点はローカルワイドニュース「MBS ナウ」
- 沢田尚子 (テレビ大阪 元アナウンサー)  
「まいどワイド 30 分」(ワイドニュース) 中のコーナー  
「今夜のおかず」がヒット。鮮度の高い情報を茶の間に届ける。
- 藤田 潔 (テレビプロデューサー ビデオプロモーション取締役名誉会長)  
「鉄腕アトム」を米国に売り込み、「11PM」、「世界遺産」など企画。  
「マスターズゴルフ」の衛星生中継を手がける。

## 【第 2 章】

- 野添泰男 (演出家、関西テレビ 元副社長)  
テレビ「どてらい男」(181 回、1973 年～1975 年)  
テレビ 芸術祭賞「青春の深き淵より」(1960 年)
- 文箭 敏 (朝日放送 元報道局プロデューサー)  
橋本安弘 (朝日放送 元専務取締役)  
「日本万国博開会式 (大阪府吹田市千里丘陵) 在阪 4 局共同中継」  
(1970 年 3 月 14 日～9 月 13 日、来場者 6421 万 8770 人)  
万国博開会式は全国の民放 78 社が同時生放送。  
「開会式中継」を担当した朝日放送の文箭敏氏とわが国初の  
カラーによるヘリコプター中継を担当した橋本安弘氏が振り返る。

- 山田芳雄 (ラジオ大阪 元プロデューサー、編成局長)  
森本純弘 (ラジオ大阪 元技術部長)  
「悩みの相談室」回答者は日本画家で放送タレントの融 紅鸞、  
きれいな大阪弁が話題になった。放送の双方向性として電話を使  
い始めたころのトーク番組。1958年開局から約30年続いた。
- 梅井丈治 (関西テレビ 元プロデューサー)  
「パンチ DE デート」(1973年) 桂 三枝、西川きよし出演。  
見知らぬ者同士がスタジオでデート。  
視聴率40%台を記録した日も。
- 伊藤道夫 (関西テレビ 元テクニカルディレクター)  
御堂筋と大阪のメインストリートを走り抜けるフルマラソン  
「大阪国際女子マラソン」とテレビ生中継 その苦心談。  
(1982年～)
- 西村大介 (朝日放送 元制作局プロデューサー)  
脱ドラマへのこだわり「お荷物小荷物」  
テレビドラマの制作には「スタッフの“職人性”」が必須条件。
- 児玉孝光 (和歌山放送 元プロデューサー)  
ローカルコミュニティー情報番組「ミュージック・パトロール」  
放送の特性である同時性を重視した人気番組。アナウンサー以外  
の声(リスナーの電話の声)が生放送されたが、1960年代として  
はまだ珍しいことであった。
- 広田 基 (読売テレビ 元制作局プロデューサー)  
関西発の公開録画番組「アベック歌合戦」(ニッケ)  
「そっくりショー」(エースコック)など その人気の秘密は。
- 岡島英次 (読売テレビ 元制作局プロデューサー)  
ユニークなトーク番組  
「鶴瓶上岡パペポTV」の初代プロデューサー(1987年～1998年)。

原田紀子 (サンテレビ 元プロデューサー)  
地域の放送局が挑む社会派のトーク番組  
「トーク 69」～「トーク 72」 司会は栗原玲児。  
地元の話からグローバルな関心事までさまざまなテーマに  
取り組み、局の個性を発揮した番組として注目された。

井上正之助 (ラジオ関西 元プロデューサー)  
三浦紘朗 (ラジオ関西 元アナウンサー)  
「電話リクエスト」(1952年12月24日放送開始)  
井上氏は1964年入社、定年後も番組を継続して担当。  
1回目放送から60年以上続く日本初「電リク」の軌跡を追う。

斎藤 努 (毎日放送 元アナウンサー、羽衣国際大学名誉教授)  
ラジオ「ヤングタウン」(1967年)  
テレビ「ヤングおー！おー！」(1969年)  
「あどりぶらんど」(1984年) ほか

川越 亨 (テレビ大阪 プロデューサー 元専務取締役)  
テレビ「天神祭生中継」(1982年～)  
在阪5局の共同制作「第1回御堂筋パレード」(1983年)  
やしきたかじん 初レギュラー番組の司会  
「今夜はうしみつ族」

田中文夫 (毎日放送 元専務取締役 現放送映画製作所社長)  
「突然ガバチョ！」(1982年) から「夜はクネクネ」(1983年) へと  
続く新しい路線。 この時代の視聴者はテレビに何を求めていたか。

岩崎和夫 (ラジオ関西 パーソナリティー)  
南かおり (フリーアナウンサー)  
ラジオ 「青春ラジメニア」(1986、昭和61年)  
アニメの音楽を中心に構成したラジオ番組は日本で最初、  
現在も放送中。ハガキを書くことの大切さを若い人たちに  
訴えた番組でもある。

森川健一 (テレビ大阪 プロデューサー)  
朝の生中継番組「オゲンコ特<sup>と</sup>派<sup>ぱい</sup>員」(1986年)。  
まだ大学生で松竹芸能に入ったばかりの森脇健児が司会。  
朝6時55分から7時10分の月～金ベルトの天気カメラが主役のテレビ番組。毎日、大川(大阪)に架かる川崎橋付近の“朝”を映し出す。

### 【第3章】

今村益三 (朝日放送 元アナウンサー、常務取締役)  
ラジオ 引き揚げ船舞鶴港取材“大報道合戦”(1953年)  
テレビ 富士山頂から日本初のテレビ生中継(1958年)

高野生年 (毎日放送 元スポーツ局プロデューサー)  
テレビ開局の昭和30年代のスポーツ中継、高校野球、プロ野球、プロゴルフ、相撲などスポーツ番組の“今と昔”を語る。  
「メインカメラをセンターの外野席に」野球中継の革命。

亀井 茂 (朝日放送 元カメラマン)  
「NHKの実験放送時代(1952、昭和27年)から  
関西初の民間放送テレビ局OTVを経て朝日放送へ。  
手作りのテレビ制作現場を経験。

早川一光 (京都放送 パーソナリティー)  
「早川一光のばんざい人間」(1987年放送開始)25年以上続く  
長寿番組(シニア向け番組)、メインパーソナリティーの早川氏は  
医師で1924年生まれ、90歳。

金子俊彦 (毎日放送 元プロデューサー)  
テレビ 長寿番組「アップダウンクイズ」を支えた人々(1963年)  
ラジオ 「海鳴り～ある海難審判」(芸術祭奨励賞、1960年)。

澤田隆治 (朝日放送 元プロデューサー テレビランド代表取締役)  
「スチャラカ社員」「てなもんや三度笠」など公開・バラエティー番組を次々とヒットさせる。藤田まことをスターへ。  
今も制作会社の現役プロデューサー。

- 青木民男 (毎日放送 元制作局長)  
テレビドラマ「源氏物語」プロデューサー。  
市川崑監督の演出指導の「源氏物語」はセットや衣装など白黒で統一するという異色の手法を使った演出で話題になる。  
1966 年度アメリカ・エミー賞受賞。  
ほか横溝正史シリーズなどテレビ映画を多数制作。
- 高岸敏雄 (朝日放送 元編成局長、常務取締役)  
OTV 時代から TBS-NET(のちにテレビ朝日)へのネットチェンジまで。テレビ草創期の秘話を語る。  
テレビ「コスモス～日米英独 4 か国共同制作」(1980 年)  
「世界の初日の出」テレビ生中継 (1983 年)
- 内海 元 (サンテレビ 元報道制作局長)  
異色の地域放送局 阪神タイガース完全生中継が“売り。”
- 川上修司 (読売テレビ 元営業局長)  
開局時からテレビ営業一筋 “営業あつての放送会社”。  
「テレビというのは、編成、制作、営業の三角形で成り立っている。これが歪んでしまうとまずい。やっぱりある種のバランス」
- 古吟勲一 (関西テレビ 元報道局プロデューサー)  
小松左京とともに 77 日間の海外取材「大黄河紀行」。  
桂米朝司会の「ハイ！土曜日です」の名プロデューサー  
薬師寺・高田好胤、お天気おじさん福井敏雄ら発掘。
- 山口洋司 (読売テレビ 元制作局プロデューサー)  
公開コメディ、演芸番組、スタジオバラエティーなどの分野でテレビ的とは何か、新しい表現を追求。  
「上方お笑い大賞」創設に関わる (26 年間)。
- 友野庄平 (毎日放送 元編成局長 常務取締役)  
“あなたは何のためにテレビを作っているのですか”、  
技術の進化が番組の質を低下させている。  
テレビ「MBS ナウ」、報道番組「ドキュメントーク」ほか。

三好 仁 (京都放送 元プロデューサー 編成局長)  
「宮城まり子のチャリティー テレマラソン」番組。  
「身障者問題」をテーマに 25 時間 ディスカッション。  
長時間番組のはしり (25 時間は当時としては世界最長)。

和田省一 (朝日放送 元プロデューサー 代表取締役副社長)  
ABC ラジオの看板番組「ABC ヤングリクエスト」(1966 年)、  
「おはようパーソナリティー」(1971 年) など“ニューラジオ”を  
模索した時代を語る。  
テレビ番組「サンデープロジェクト」の初代プロデューサー。

#### 【第 4 章】阪神淡路大震災

三枝博行 (ラジオ関西 前社長)  
地域に根差した被災放送局の役割とは。  
「阪神淡路大震災」被災放送局からの体験報告。

藤原正美 (ラジオ関西 パーソナリティー)  
1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分、スタジオ内にいた。  
地震発生時の混乱した状況をリアルに語る。

宮田英和 (サンテレビ 現総務局長、メディア戦略局長)  
震災報道のデスク、宮田氏の自宅がサンテレビ社屋の近くにあり、  
いち早く会社につけ、震災直後から情報収集や取材の指揮をし  
た。被害の大きかった放送局の中でどんな形の放送を続けたか。

以上

本書をご希望の方は、  
出版社「NPO 法人大阪公立大学共同出版会 (OMUP)」へ直接お申し込み  
いただくか (送料実費必要)、お近くの書店にお申し込みください。  
または、アマゾンからも注文することができます。

NPO 法人大阪公立大学共同出版会 (OMUP) TEL : 072-251-6533

FAX : 072-254-9539

(大阪府堺市中区学園町 1-1 大阪府立大学内)